

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効率的に進めている実践事例
-------	------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

京都府京都市

○学校名

京都市立向島東中学校

○学校のURL

<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=207300>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年 3 学級 【特別支援学級】 3 学級 【合計】 1 2 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 2 3 3 人（平成 2 7 年 5 月 1 日現在）
（内訳：1 年生 70 人，2 年生 71 人，3 年生 92 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成 2 6 ・ 2 7 年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

創造的で、個性豊かな人間性の育成を目指して、生徒の学力の向上を図るとともに、たくましく思いやりのある生徒を育成する。

【人権教育に関する目標】

自ら進路を切り拓き、社会的自立の基盤となる「生きる力」を培う人権教育の創造

○人権教育に係る取組一口メモ

人権が尊重される教育の場としての学校・学級で、自分の人権を守り他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

本校は、向島ニュータウンの住宅建設に伴い昭和 5 9 年度に開校した。校区内には、農業地域、高層住宅地域が混在している。様々な背景を要因とした家庭における学習習慣の定着が難しいことや規範意識・将来展望に乏しいことなどのような課題を持つ生徒も少なくない。

このような状況から、これまでも、人権教育の成立基盤として、全ての生徒に生きるための学力をつけることを目指して実践を続けてきた。本校では、「生きるための力」を企業から雇われる能力（employability）と考えている。一人一人の生徒を徹底的に大切にしてきた向島東教育を継続し、どの生徒も集団の中で共に汗を流し、共に学び、規律ある人間関係を構築することを目指して、研究テーマを「自ら進路

を切り拓き、社会的自立の基盤となる『生きる力』を培う人権教育の創造」と設定した。

◆人権教育の目標を達成するために

- (1) 一人一人の意欲を引き出し、学習効果を高める授業づくり
- (2) 学習効果を高めるための家庭学習づくり
- (3) 人権が尊重される教育の場としての学校・学級づくり

3. 特色ある実践事例の内容

人権教育の目標達成に向けた一人一人の意欲を引き出し、学習効果を高める授業づくり

○ 一斉指導から生徒同士の学び合いへ

本校の生徒は、授業を聞く姿勢はできているものの、話し合い活動で積極的に意見交換をすることが少ない。これは、基礎的な内容が理解できていないという不安や自信がないことによると考えられる。生徒が話し合い活動のグループ活動で自信を持ち積極的に発言することにより、自尊感情を高め、学習意欲を向上させ、学力の向上を目指したいと考えた。

そこで、指導者が一方的に教え込む授業形態から、生徒全員が授業に参加し、問題を解決する力が養える授業方法を模索した。その結果、協調学習ジグソー法（大学発教育支援コンソーシアム推進機構 COREF 推奨）を取り入れることとした。協調学習ジグソー法は、一人一人の学習者が何かを「わかって」いくときの道筋は多様で、その捉え方は一人一人違いがあり、その違いを生かし、仲間と学び合うという方法である。また、多様な考えを一人一人がグループで持ち寄り、新たな課題を解決していくことから、各自が自分なりの理解を深め、グループで学んだ成果から問題解決の適用範囲を広めてゆける学習方法でもある。なおかつ、グループの中で自分の考えを伝え、相手の考えを聞くということからコミュニケーション能力の育成も期待できる。一人一人の「わかり方」を尊重し、学習者を中心にした学習方法である。

ジグソー法を用いた授業の流れ

エキスパート活動「課題に答えを出すための部品となる資料に取り組む」

↓

ジグソー活動「エキスパート活動で得た知識を活用し、組み合わせながら課題に答えを出す」

↓

クロストーク「ジグソー活動での答えを交流することで、多様な解を一般化する」

○ジグソー学習指導案

知識構成型ジグソーを用いた協調学習授業 指導案

対象（実施を想定する生徒の概要）

本クラスはおとなしい生徒が多いが、発問に対しては数人が積極的に発言する。授業には集中力もあり、前向きに授業に取り組む雰囲気が出てきている。授業は、小学校からの復習を行いながら進めている。しかし、既習事項がなかなか定着しにくく、毎時間、授業は前時の復習からスタートしている。全体としては、学力差が大きいいため、グループの構成次第では、活発な活動が期待できる。

授業のねらい（教科としてのねらい・前後の授業との関連・生徒に期待する学習など）

平面図形の発展問題として、学習確認プログラムなどでも正答率の低い「おうぎ形の弧の長さ」と「回転移動」に取り組む。この2つを複合した応用問題に挑戦させることで移動した図形が作り出す形の美しさに気づいたり、中心角を計算に取り入れることがスムーズにできるようになったりすることを期待する。

メインの課題（ジグソー活動の課題）

転がる図形の描く曲線の形や長さを求める。

期待する解答の要素（課題について子供たちに語れてほしいストーリー）

①図形を回転移動したものである。②点Pの描く曲線は、正三角形の1辺が半径となる円の一部（弧）になる。③②の弧の中心角は正三角形の内角 60° の整数倍になる。以上の3点に気付くことを望む。

各エキスパート〈期待する解答の要素を満たした解答を生徒が出すために、各エキスパートで抑えて欲しいポイント、そのために扱う内容・活動〉

A：（弧の長さ） 中心角を利用して、弧の長さを求める。
 B：（角度の作図） 正三角形を利用して、指定した角度を作図する。
 C：（回転移動） 回転移動を確認することで、頂点がどこに移動したのか分かる。

学習活動のデザイン

段階	学習内容および学習活動	教師の留意点	形態	資料・準備
つかむ 5分	①学習課題をつかむ 〈学習課題〉 転がる図形が描く曲線の形と長さを求める。	◆ジグソー問題の提示はしない。 取り組むシステムの説明をする。 みんなが責任をもって学習しないと最後の問題を解くことはできないことを抑える。	全体	フラッシュカード

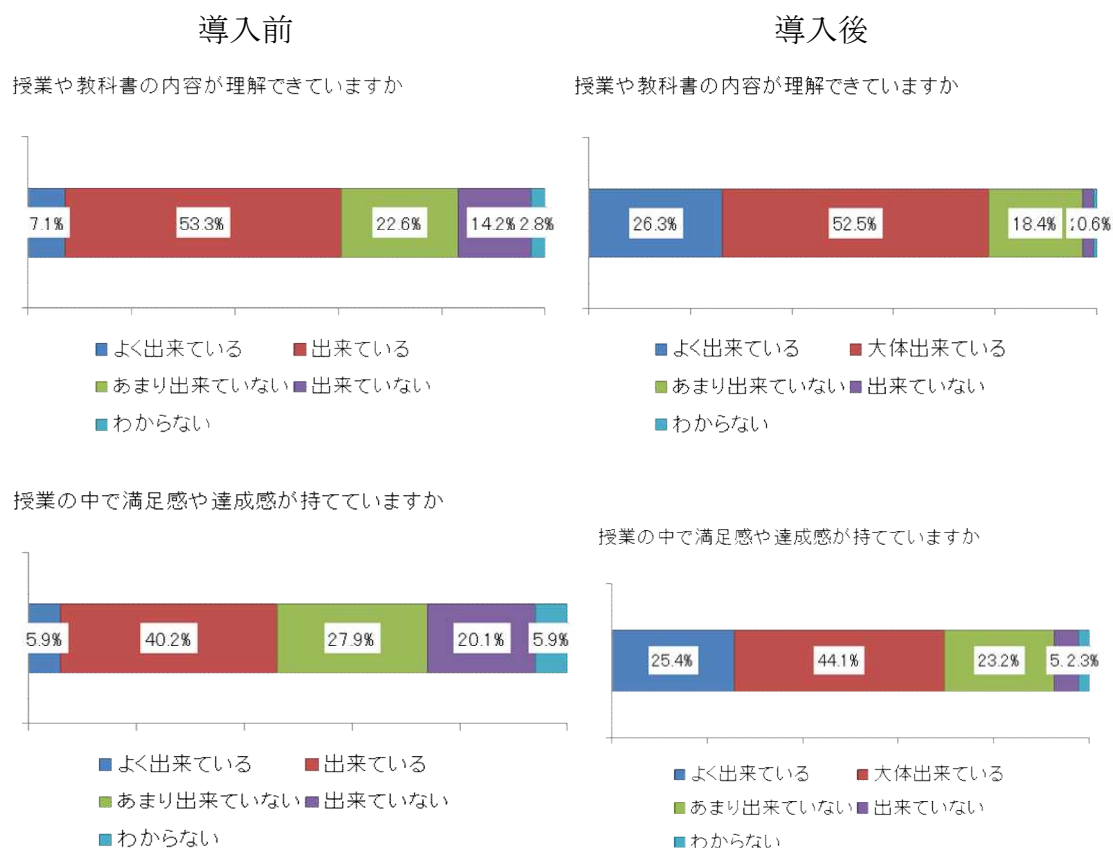
考える 10分	②エキスパート班で活動 A (弧の長さ) B (角度の作図) C (回転移動)	◆既習事項であるため、説明はしないで、復習として取り組ませる。 ◆班で協力して班員全員ができるように促す。 ◆人数が23人であるため、エキスパート班は、4人×5グループ・3人×1グループにする。	エキスパート班	- エキスパートシート - Bグループにはコンパスを配布
深める 30分	③ジグソー班で活動 意見交流と考察をし、課題を解決する。 ◇エキスパート班で学んできたことを、ジグソー班で共有する。 〈問題〉 1辺が12cmの正三角形を直線m上を滑らないように転がるとき、次の問いに答えなさい。 (1) 点Pの描く曲線を作図 (2) その曲線の長さを求める。	◆ジグソー班は、人数調整をして、3人×5グループ、4人×2グループで行う。 ◆班に記入用の画用紙1枚と水性マーカー1本渡しながら机間指導をする。 ◆問題の図形を黒板に張り付けて「転がる」イメージがわかるように配慮する。 ◆早く課題を解決した班は、レベルUP問題に取り組む。	ジグソー班	- ジグソーシート - フラッシュカード - 問題のイメージがつかえるように図形を用意 - レベルUPシート
	④クロストーク それぞれのグループで考えを交流し、点Pが回転移動でどのような軌道を通るのかが分かる。	◆画用紙を黒板に貼り付けて作図をどのように考えたのか発表する。	通常の座席に戻してのクロストーク	
5分 まとめ	⑤本時のまとめ	ジグソープリントに自己評価させる。	全体	

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

新しい授業スタイルのため、近隣に研究推進校がなく東京への発表会参加やインターネット上に公開されている指導案を参考に研究を進めた。研究の中心となっている大学関係者から指導を受けることで、すべての教科でジグソー学習を導入した授業実践が可能になった。

5. 実践事例の実績、実施による効果

ジグソー学習を導入することにより、支援を必要とする生徒も活躍の場が増え、授業に集中する時間が増加している。また、話し合い活動に消極的な生徒の活動が活性化している。基礎的な内容が理解できていないという不安や自信がない本校の生徒がエキスパートやジグソー活動の中で自信を持ち積極的に説明や討議をリードしている姿を見ることができるようになった。ジグソー学習導入前と導入後のアンケート集計からも、生徒の意識変化が表れるなど、本校の人権目標である「自ら進路を切り拓き、社会的自立の基盤となる『生きる力』を培う人権教育の創造」の実現に寄与している。以下、アンケート集計のグラフを提示する。



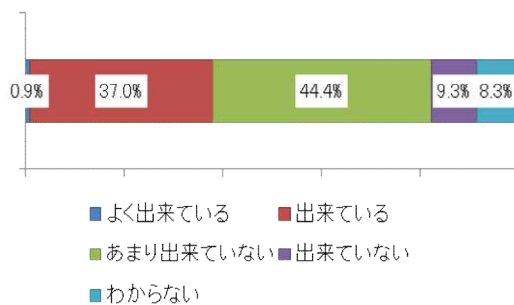
6. 実践事例についての評価

人権教育の目標を学校だよりで発信したり，授業参観で保護者に伝えたりしてきたことにより，少しずつ保護者や地域から学校への評価が高くなった。以下は学校評価アンケートの一部抜粋である。

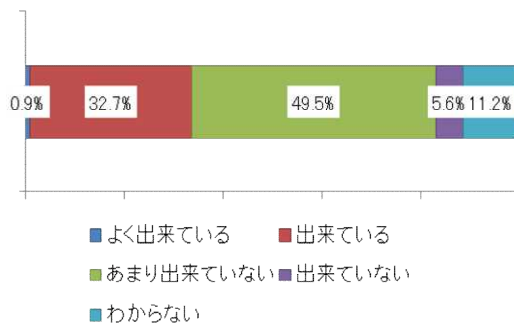
今後も学校から保護者や地域へ取組の様子など積極的に情報を発信していき，保護者や地域の理解・協力のもと子供を育んでいきたい。

H 2 6

学習効果上げるため，教員が指導法の工夫に取り組むこと

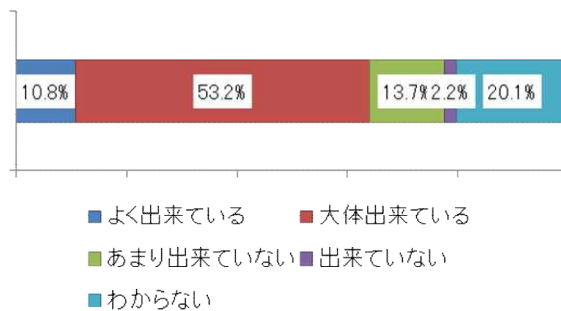


学校が人権を大切にされた教育活動を行うこと

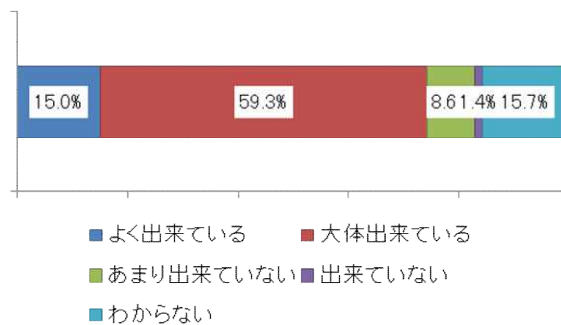


H 2 7

学習効果上げるため，教員が指導法の工夫に取り組むこと



学校が人権を大切にされた教育活動を行うこと



【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

京都市立向島東中学校

様々な課題をもつ生徒が少なくない状況を踏まえ、『自ら進路を切り拓（ひら）き、社会的自立の基盤となる「生きる力」を培う人権教育の創造』とテーマを設定し、（１）一人一人の意欲を引き出し、学習効果を高める授業づくり（２）学習効果を高めるための家庭学習づくり（３）人権が尊重される場としての学校・学級づくりの三つの柱を設けて実践を行っている。特に授業づくりにおいて、すべての教科に協調学習ジグソー法を導入して、生徒全員が授業に参加し、問題を解決する力を養う授業を行っているところに特徴がある。支援を必要としている生徒の活躍の場が増え、授業に集中する時間が増加したことや、話し合い活動に消極的な生徒の活動が活性化したことなどは、アンケートでの「授業や教科書の内容が理解できている」「授業の中で満足感や達成感をもてている」と答えた生徒の割合の大きな伸びにつながり、生徒の意識の変化を表している。人権教育の成立基盤として、すべての生徒に生きるための学力をつけることを目指した実践として参考になる。